

地方創生の取組に関するアンケート調査結果

2026年3月

公益財団法人 日本生産性本部
一般社団法人 オープン教育研究所

【目 次】

調査概要と回答結果	3
1. 回答者の属性	5
2. 各設問回答状況	9
3. まとめ	20

【付録】 アンケート調査票

【調査概要と回答結果】

【調査の概要】

	今回（2025年度調査）	今回（2024年度調査）
(1) 調査期間	2025年12月24日 ～ 2026年1月16日	2024年12月3日～ 12月31日
(2) 調査方法	ウェブアンケート調査	ウェブアンケート調査
(3) 調査対象数	地方創生カレッジの利用登録者 44,442人（2026年1月14日時点）	地方創生カレッジの利用登録者 42,784人（2025年1月6日時点）
(4) 有効回答数	914件	763件

本調査は、地方創生カレッジでの学びがどの程度実際の業務等に活かされているか、その現状を把握することを目的としている。

アンケートの回答者数は、昨年度と比較して151件増加し、914件（回答率2.0%）となった。

【回答者の属性】

(1) 居住地

- ①政令市・中核市・施行時特例市・東京23区
- ②市（政令市等以外）
- ③町・村

(2) 職業

- ①公的機関（地方公共団体・政府機関・その他公的機関）
- ②農林水産業・建設業・製造業の合計
- ③電気ガス業・通信業・不動産業の合計
- ④金融業（都市銀行・地方銀行・信用金庫・信用組合・その他金融業）
- ⑤不動産業・卸小売業・鉄道業・バス業・旅行業・飲食業・宿泊業・その他サービス業の合計
- ⑥調査専門機関等（コンサルタント業・シンクタンク・公認会計士・税理士・中小企業診断士）
- ⑦学生等
- ⑧その他

(3) 役職

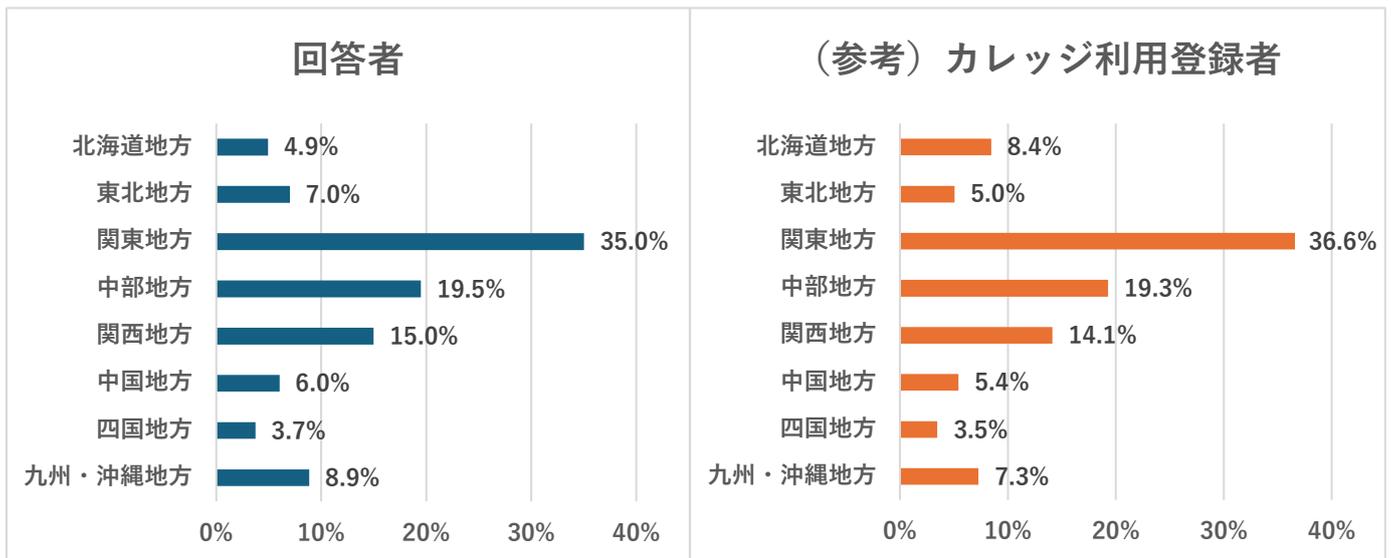
- ①経営層

- ②管理職（部長・課長等）
- ③非管理職（一般従業員等）
- ④個人事業主
- ⑤学生
- ⑥その他

1. 回答者の属性

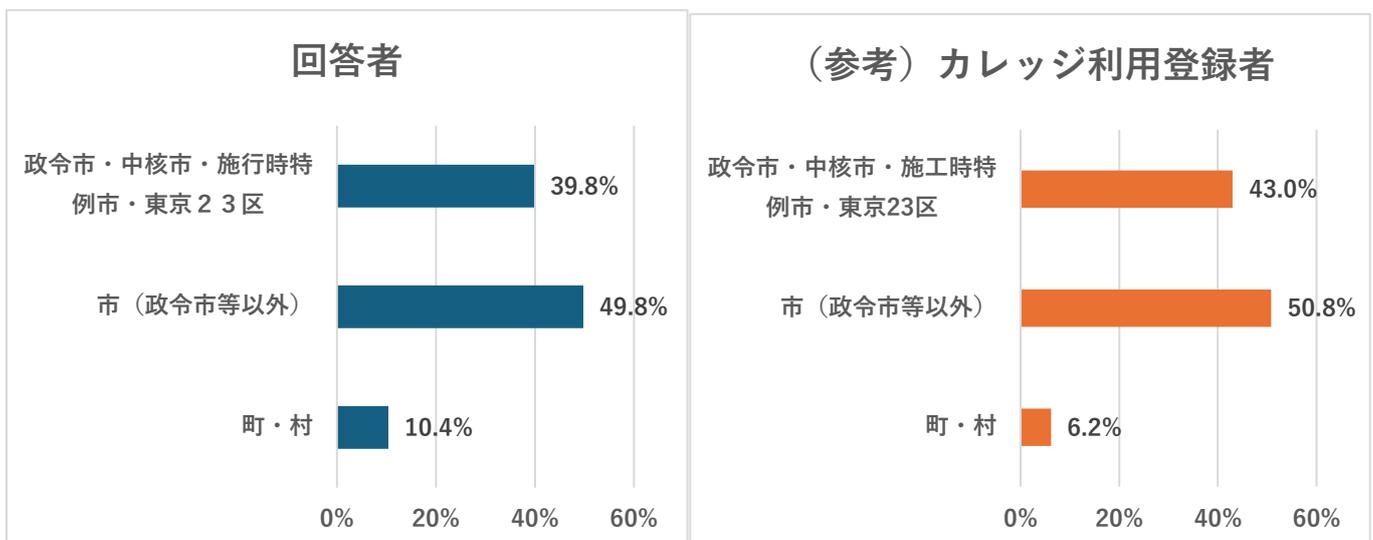
(1) 地域

回答者の地域別の分布は、関東地方が約3割強と最も多い。次いで中部地方・関西地方が2割弱となっており、人口の多い地域ほど回答数が多い結果となっている。回答者の分布は、北海道地方が利用者全体に比べて若干少ない程度で、地方創生カレッジの利用登録者全体の地域別の分布と概ね同様となっている。



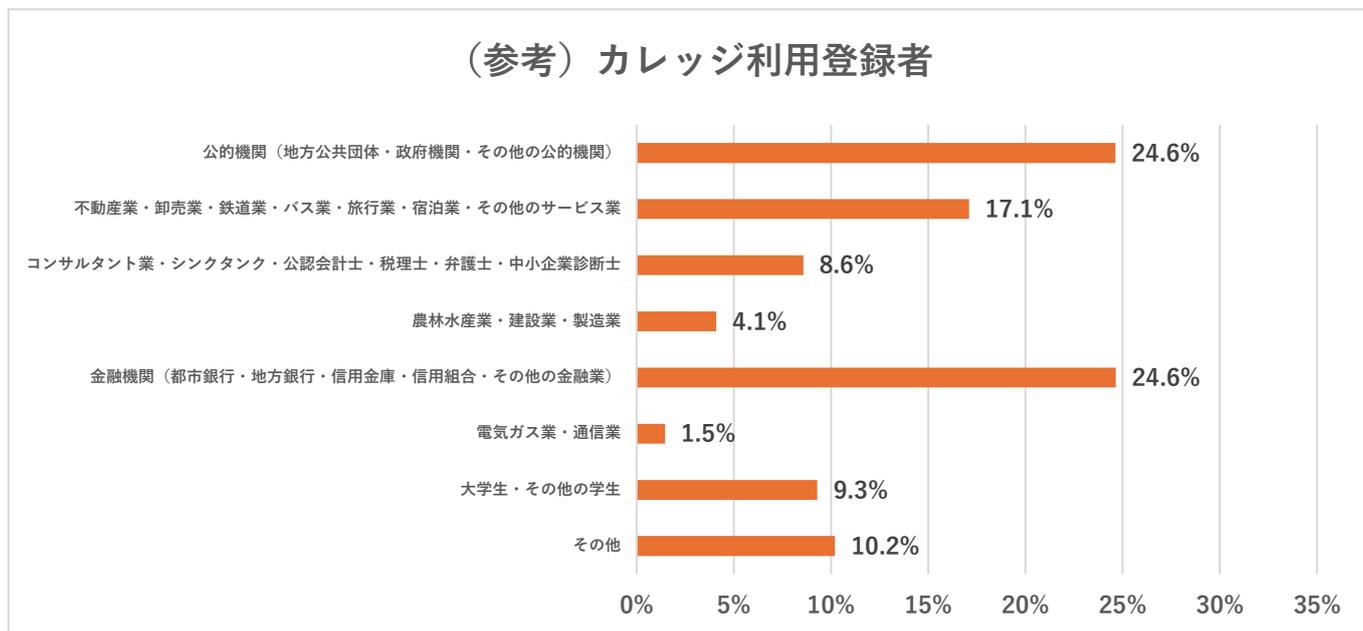
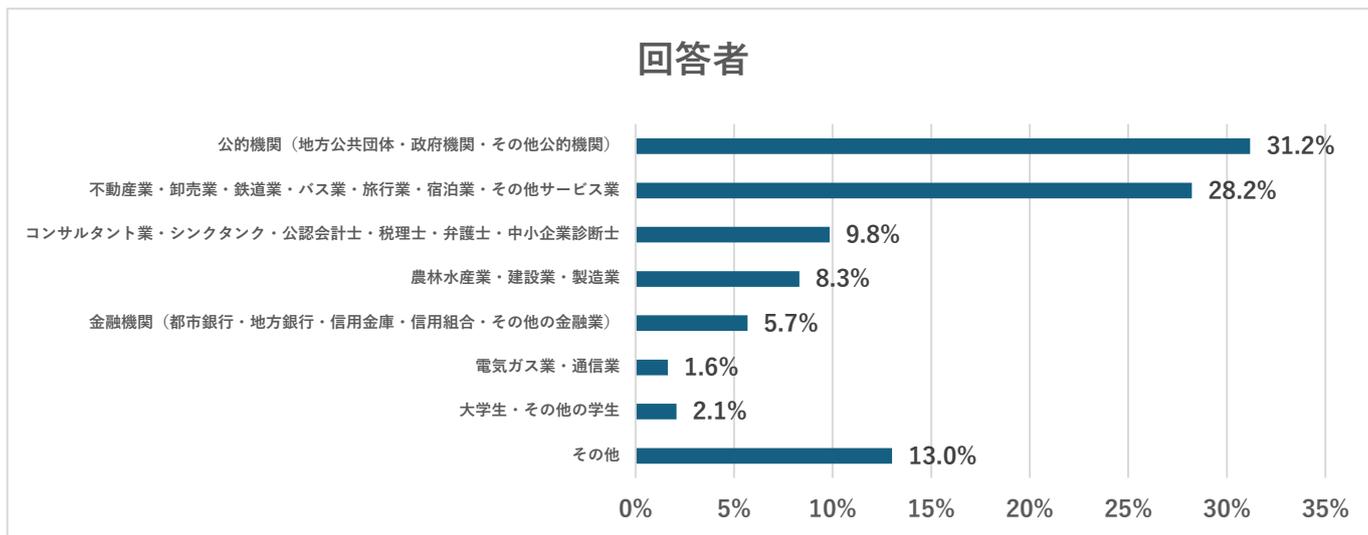
(2) 居住地

回答数の居住地別の分布は、政令市・中核市・施行時特例市・東京23区の居住者が約4割弱、政令市等以外の市の居住者が約5割弱となった。回答者の分布は、地方創生カレッジの利用登録者全体の地域別の分布と概ね同様となっている。



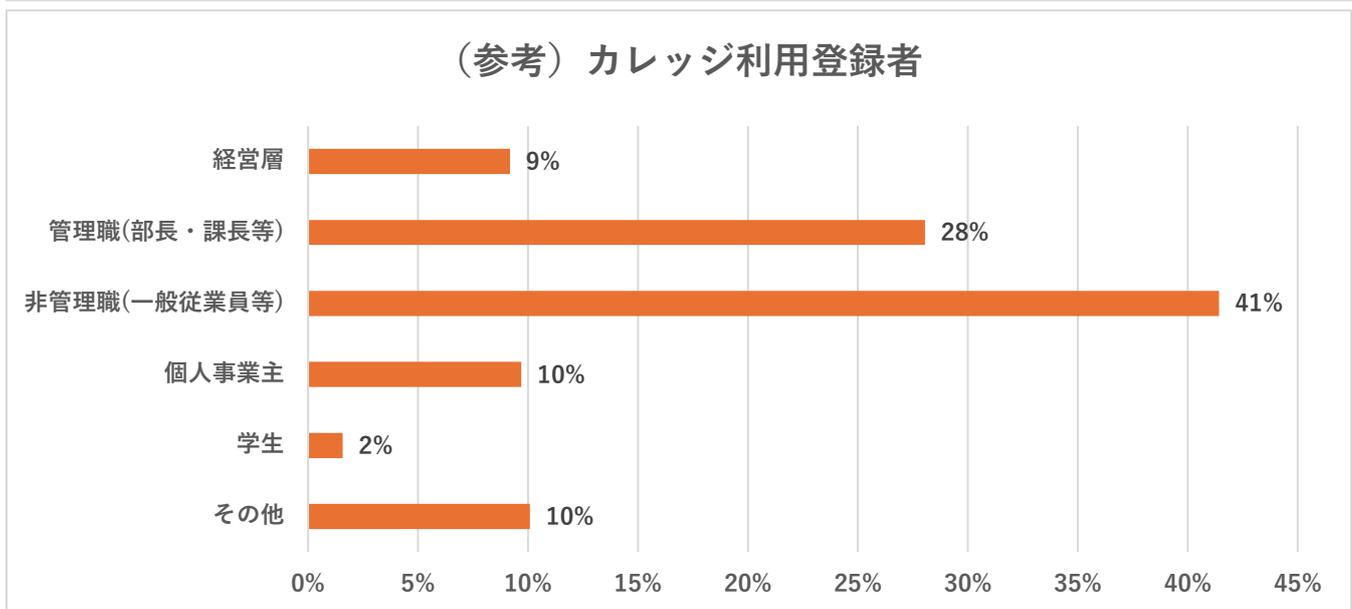
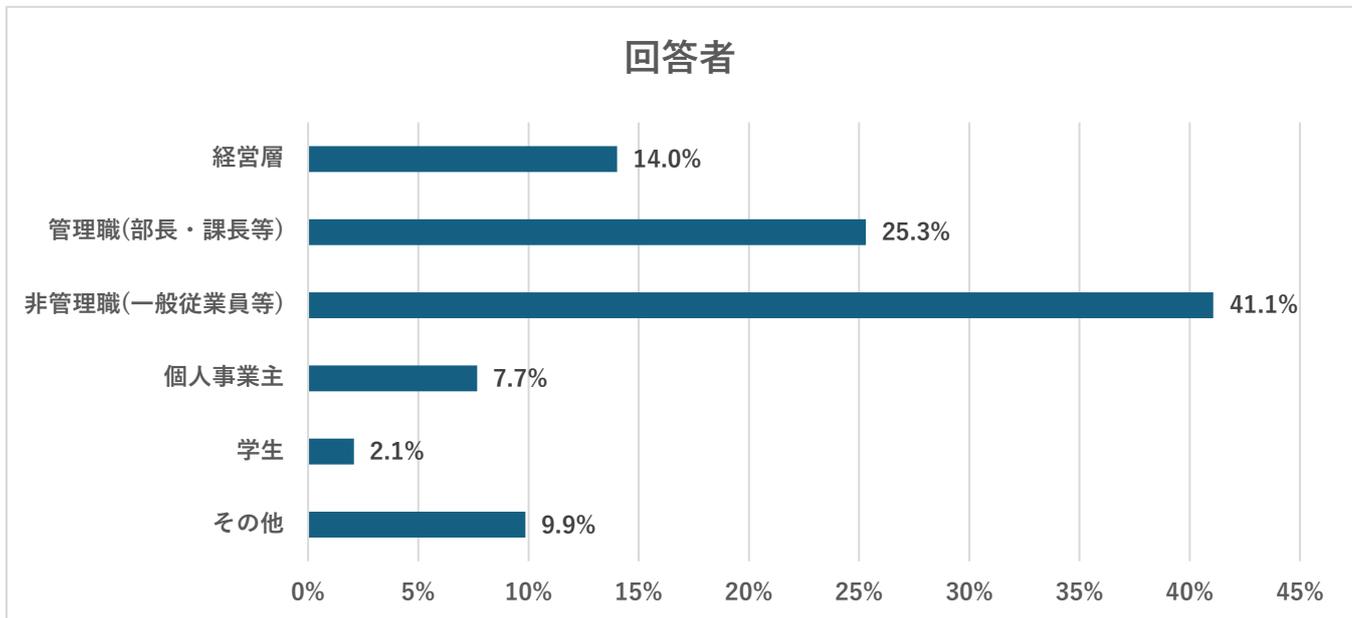
(3) 職業

回答者の職業別の分布は、公的機関（地方公共団体・政府機関・その他公的機関）が約3割と最も多くなっている。地方創生カレッジの利用登録者全体の職業別の分布と比較すると、金融機関や学生の回答率が低い結果となった。一昨年度、昨年度と比較して、「不動産業・卸売業・鉄道業・バス業・旅行業・宿泊業・その他のサービス業」の回答率が増加した（7.7%→22.0%→28.2%）。



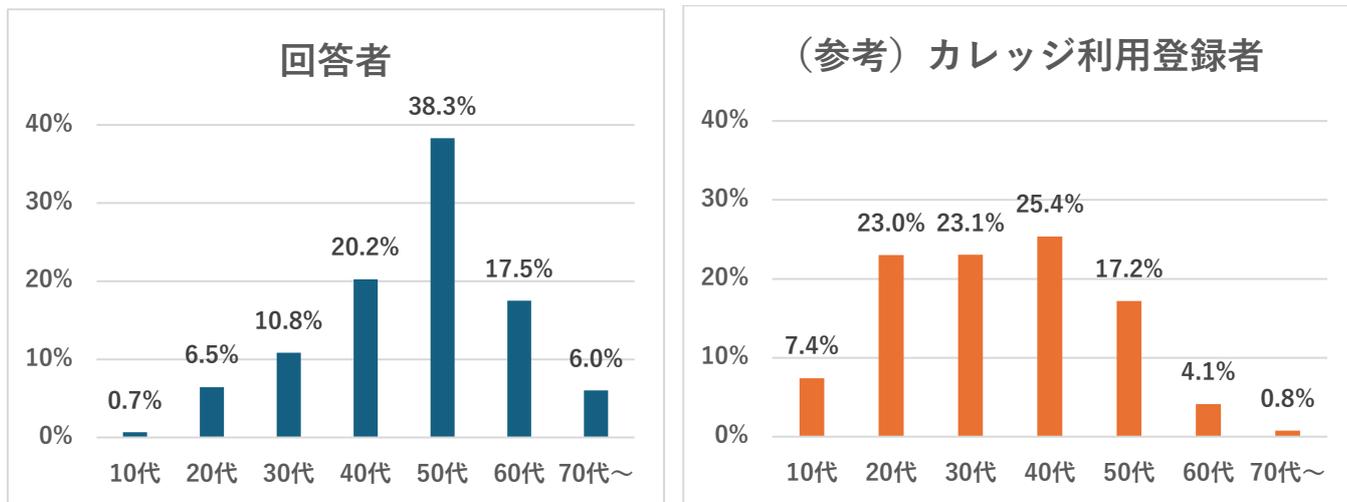
(4) 役職

回答者の役職別の分布は、非管理職（一般従業員等）が約40%と最も多い。次いで管理職（部長・課長等）が約25%となっている。地方創生カレッジの利用登録者全体と比較してもおおよそ同程度の割合となっている。



(5) 年齢

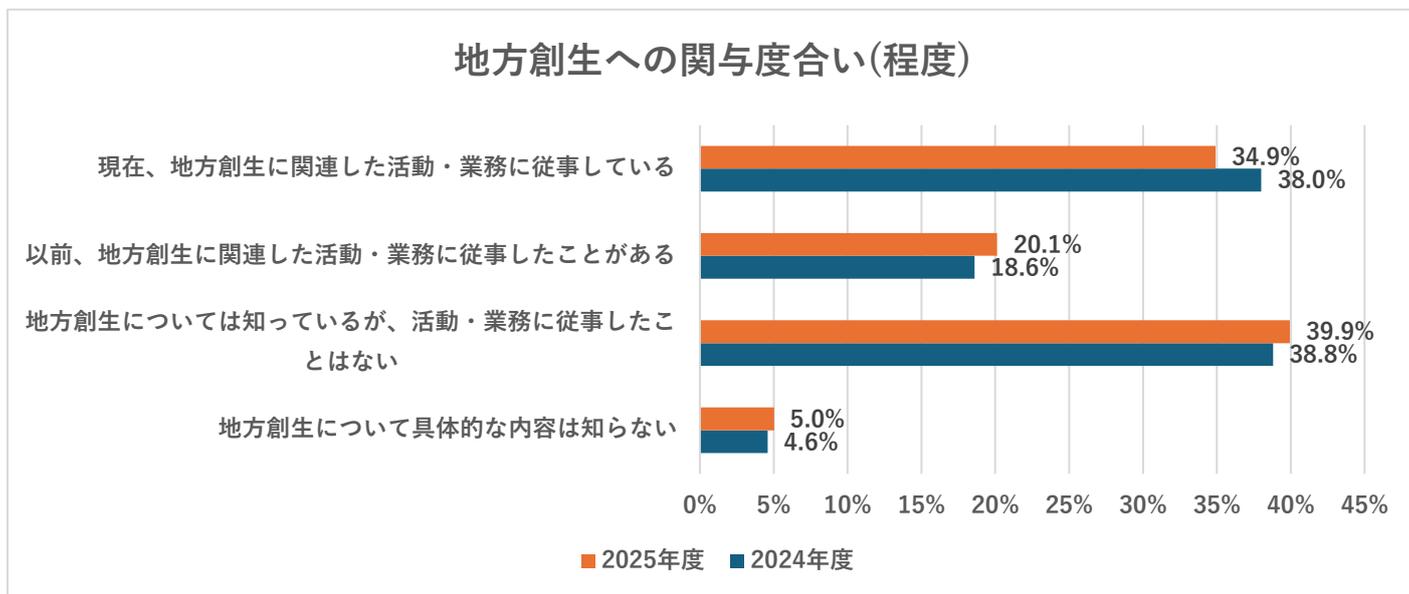
回答者の年齢別の分布は、40歳代から50歳代が多い。地方創生カレッジの利用登録者全体の年齢分布と比較すると、若年層からの回答が少ない結果となった。



2. 各設問回答状況

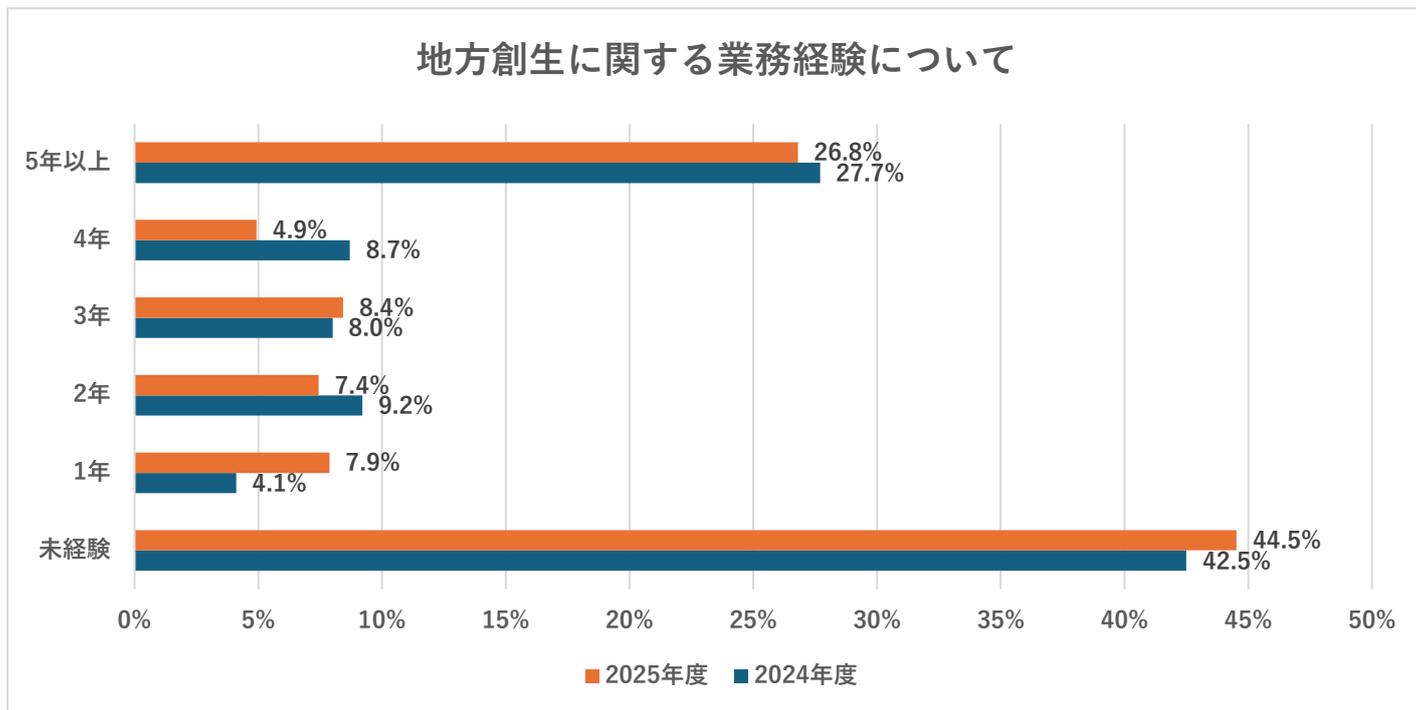
(1) 地方創生への関与度合(程度)についてお聞きします。【1つに回答】

「地方創生については知っているが、活動・業務に従事したことはない」と回答した受講者が39.9%（前年度比1.1%増）と最も多かった。次いで、「現在、地方創生に関連した活動・業務に従事している」と回答した受講者が34.9%（前年度比3.1%減）となった。



(2) 地方創生に関する業務経験についてお聞きします。【1つに回答】

回答者の44.5%が地方創生に関する業務経験について「未経験」と回答している。一方で、地方創生に関する業務経験が「5年以上」と回答した割合が26.8%となった。



(3) Q8.で「1.~5.」の選択肢にご回答された方は、差し支えない範囲で具体的にどのような地域活動かお聞かせください（任意）

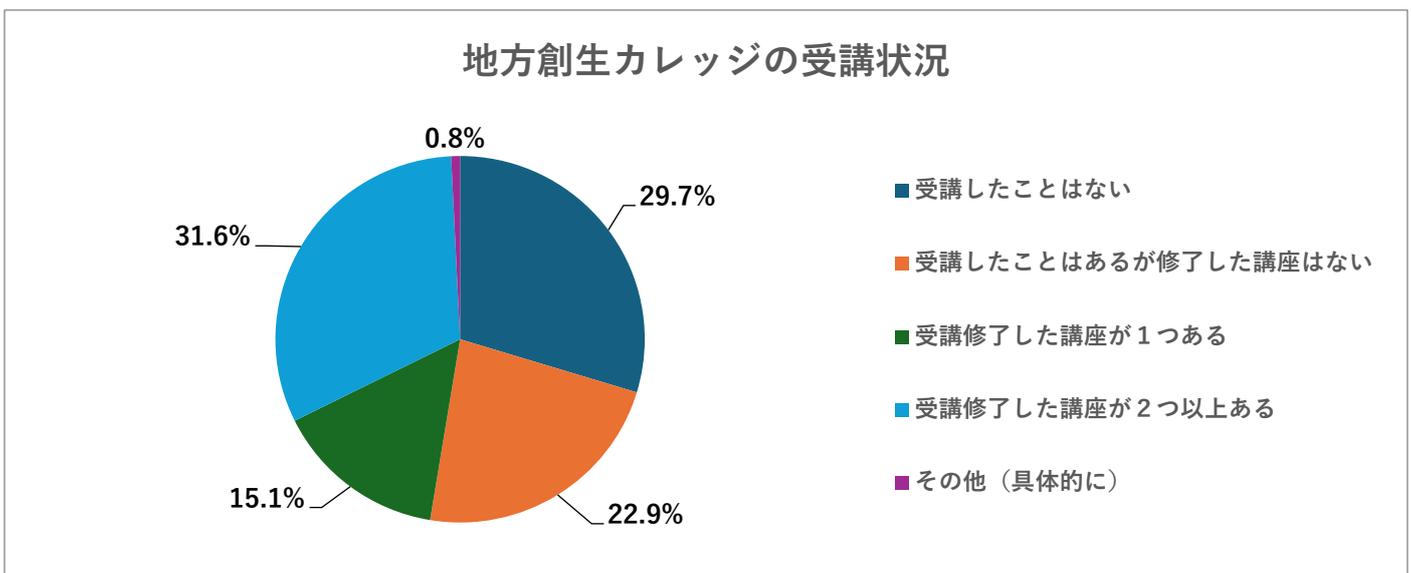
回答者が取り組む地域活動の例を下表に示す。

カテゴリ	具体的な地域活動（一部）
行政・広報	<ul style="list-style-type: none"> 行政課題の解決に向けた企画立案 自治体職員としての地域活動・産業振興 官民連携・産学連携による地域価値向上
地域振興・経済	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興、観光協会での誘客・受入整備 商工業支援、企業誘致、創業支援 ふるさと納税業務、地域商材の販路拡大 地域資源（森林・温泉・文化）の活用事業 地域イベントの企画・運営（祭り、交流事業など）
教育・文化	<ul style="list-style-type: none"> 大学での地域活性化講義、ワークショップ企画 高校生の探究活動支援、アントレ教育

	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館・文化施設の運営 ・子ども会の再活性化、子ども食堂 DAO ・小中学生への職業体験提供 ・地域文化の継承（伝統文化、祭り、農村文化など）
環境・防災	<ul style="list-style-type: none"> ・珊瑚の養殖と海洋環境保全 ・ゴミ拾い、地域清掃活動 ・獣害対策支援 ・防災を含む地域の共創活動
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品の造成・販売 ・狩猟・稲作などの一次産業参入 ・地域住民主催イベントへの参加 ・国際交流、若者リーダーの場づくり ・国内外の地域活性化プログラムのコンサル提供
デジタル活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体 DX 推進、DX 研修企画 ・スマートシティ推進 ・eラーニング、オンラインアンケート ・ドローン空撮による地域活性化 ・IoT 活用推進

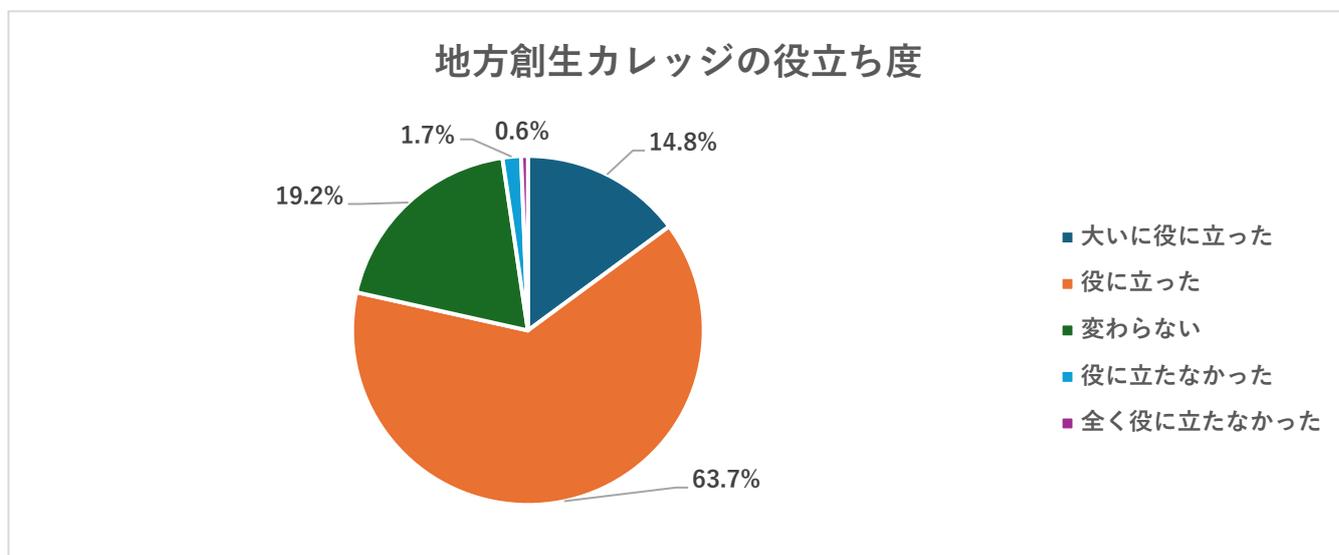
（４）地方創生カレッジの e ラーニング講座の受講状況をお聞かせください。[1 つに回答]

回答の結果、「受講したことはない」が 4 分の 1 程度を占めたが、その他の受講者は受講経験があり、全体の半数以上は 1 つ以上の講座を受講完了していた。その他の回答として「10 講座以上受講している」等が挙げられる。



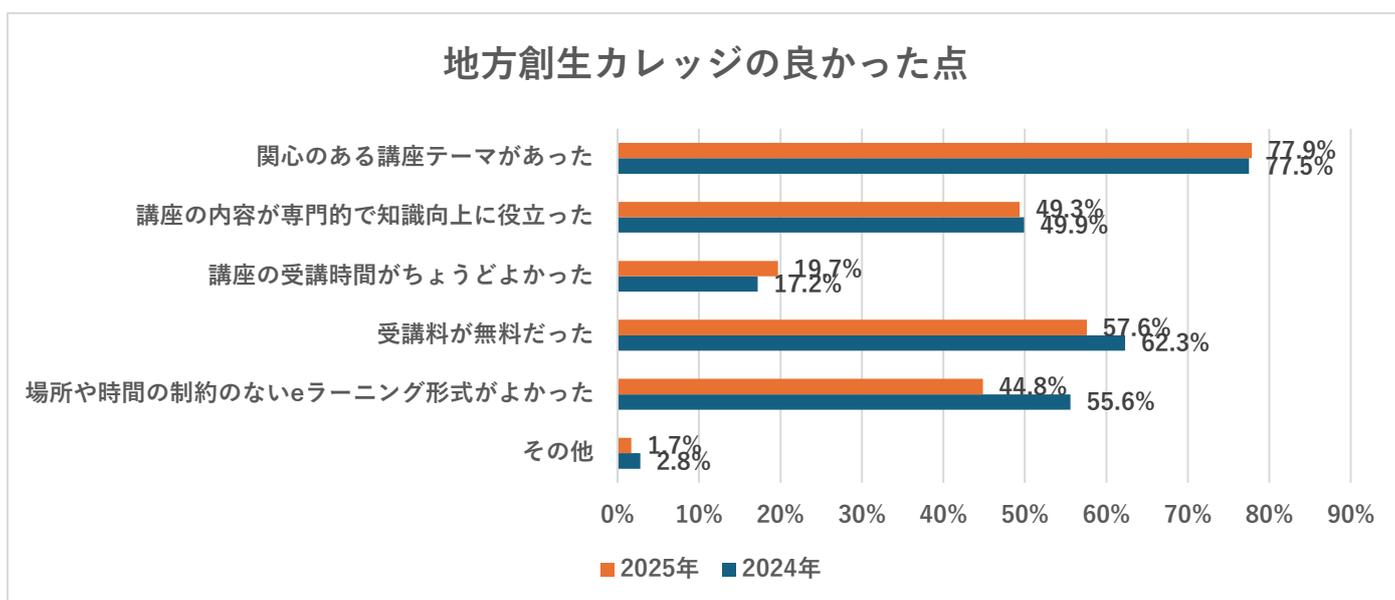
(5) 地方創生カレッジでの受講がご自身の業務にどの程度役に立ったかお聞かせください。[1つに回答]

地方創生カレッジの受講経験のある回答者からは、「大いに役立った」が14.8%、「役に立った」が63.7%となり、役に立ったと回答した割合が全体の4分の3以上を占めた。



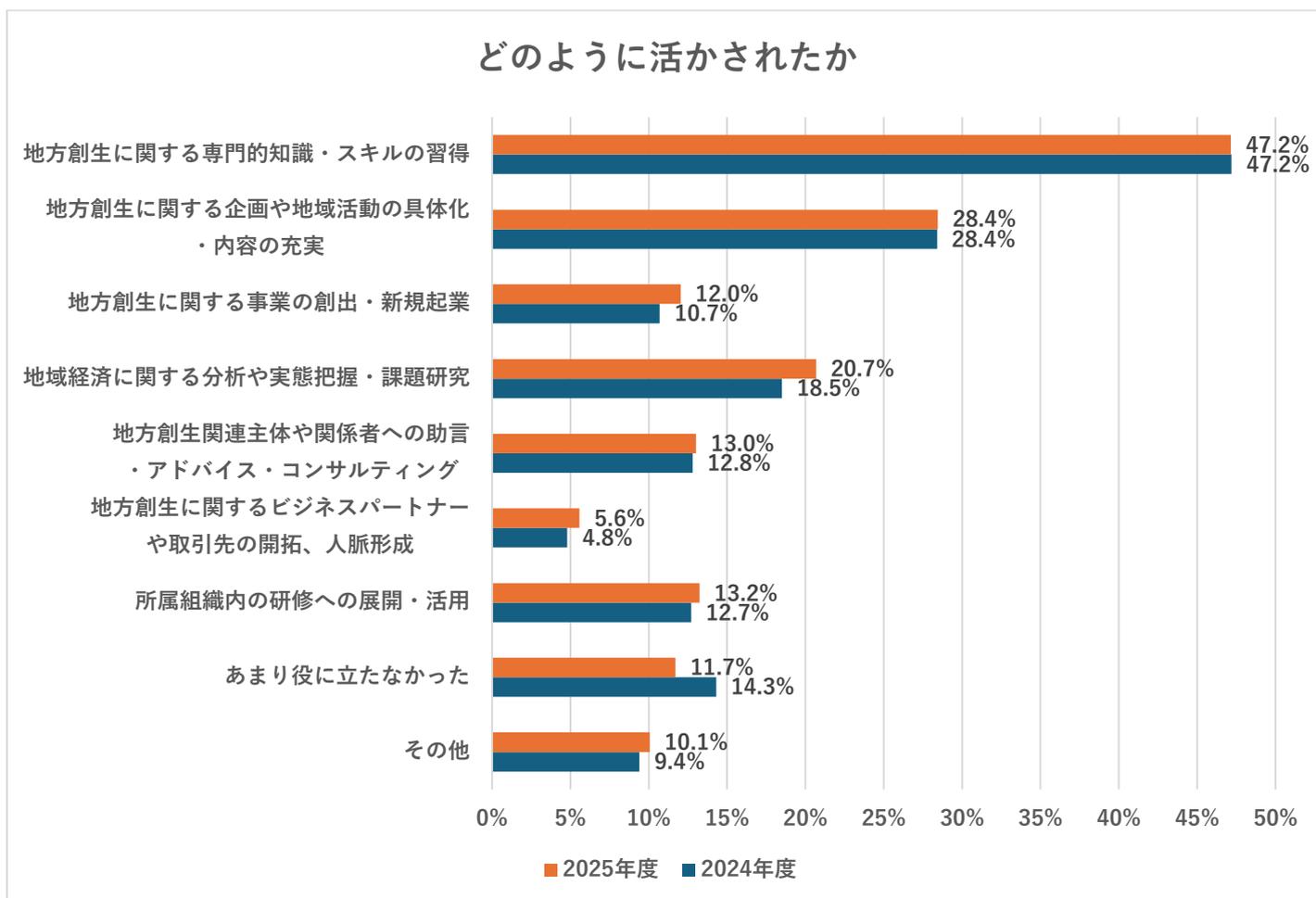
(6) 地方創生カレッジの良かった点をお聞かせください。【複数回答可】

地方創生カレッジが「大いに役に立った」「役に立った」と答えた回答者からは、地方創生カレッジの良かった点としては、昨年度に引き続き「関心のある講座テーマがあった」、「受講料が無料だった」と回答した割合が多かった。昨年度と比較して全体的な評価に大きな差はないが、「所要時間がちょうど良かった」の回答が2%程度増加した(19.7%)。一方で講座の専門性、受講料無料、eラーニングが良かったと回答した割合はそれぞれ減少している。「その他」の回答としては、「地域創生について具体的に分かった」、「受講者や講師とのつながりができた」等が挙げられる。



(7) 地方創生カレッジで学習された知識等は、どのような実務や地域活動に活かされましたか。【複数回答可】

傾向としては昨年度から大きな変化はない。「地方創生に関する専門的知識・スキルの習得」と回答した割合が最も多く47.2%となっている。次いで「地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実」「地域経済に関する分析や実態把握・課題研究」と回答した割合が多い。昨年度の調査と比較して、「あまり役に立たなかった」と回答した割合が減少した。「その他」の回答の具体的な内容としては、「現在受講していることを今後活かしたい」「専門職大学院の授業で必須課題だった」「役立てるまで習得できていない」との回答があった。



(8) 地方創生カレッジの具体的な活用事例をお聞かせください。【任意】

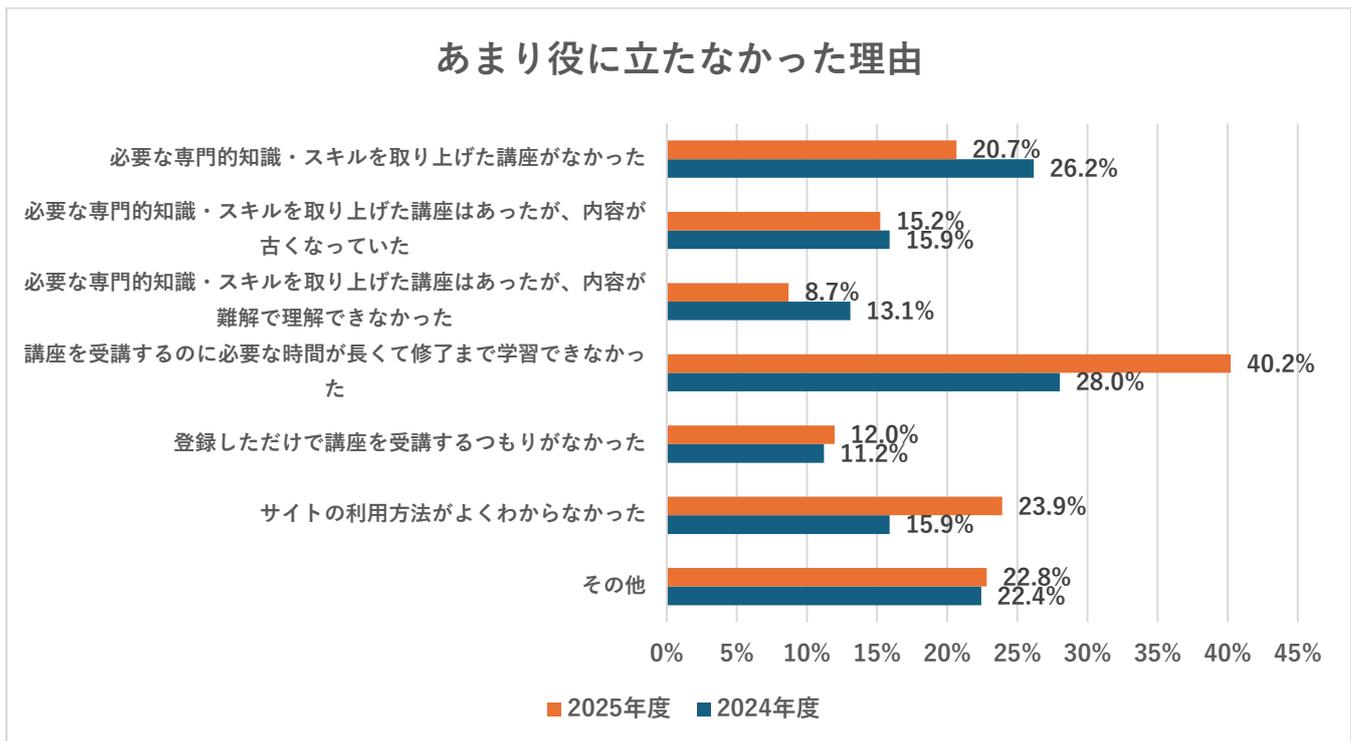
具体的な活用事例については、141件の回答があり、内容は多岐にわたっている。実務・活用分野別に回答例を挙げると下表のとおりとなっている。

実務・活用分野	具体的な活用事例（一部）
「地方創生に関する専門的知識・スキルの習得」	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ分析・統計・地域経済の基礎理解 ・ 公共政策・地方創生の体系的知識の習得 ・ IOT・DX・セキュリティなどの技術系知識 ・ 非営利会計・金融などの実務知識 ・ 地域づくりの背景理解やマクロ視点の獲得
「地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化観光拠点施設・地域商社などの実践プロジェクト ・ NPO 活動・地域イベント・アートプロジェクトの企画運営 ・ スマートシティ・防災・コミュニティバスなどの地域施策 ・ 大学・自治体・DMO と連携した地域事業の展開 ・ 空き家活用・地域産業支援などの地域活性化実践
「地域経済に関する分析や実態把握・課題研究」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域経済や人口動態の分析 ・ データ分析を用いた課題把握 ・ 地域脱炭素・環境課題の調査 ・ 経営改善や地域企業支援のための分析 ・ 他地域の事例比較や情報交換
「地方創生に関する事業の創出・新規起業」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域商社・文化施設などの事業立ち上げ ・ 新規事業開業支援・ビジネスマッチング ・ 空き家活用事業（町家改修→相談所） ・ 観光商品開発・地域ツーリズム事業 ・ オンライン講座開設などの個人起業
「地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体・議会への提案や政策助言 ・ DMO 設立支援や官民連携のアドバイス ・ 事業提案書作成・資料作成の支援 ・ 商店街活性化・地域団体への助言 ・ 自治体職員・住民との対話や合意形成のサポート
「所属組織内の研修への展開・活用」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場内研修・勉強会での共有 ・ 研修内容の反映・教材化 ・ 外部講義・院内研修での伝達 ・ 職員の意識向上・コミュニケーション促進

	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成事業での講座実施
「地方創生に関するビジネスパートナーや取引先の開拓、人脈形成」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・自治体・NPO とのネットワーク形成 ・活動協賛者・協力者の獲得 ・大学・DMO・企業との連携強化 ・支援機関や社内部署との接続 ・地域活動を通じた人脈拡大

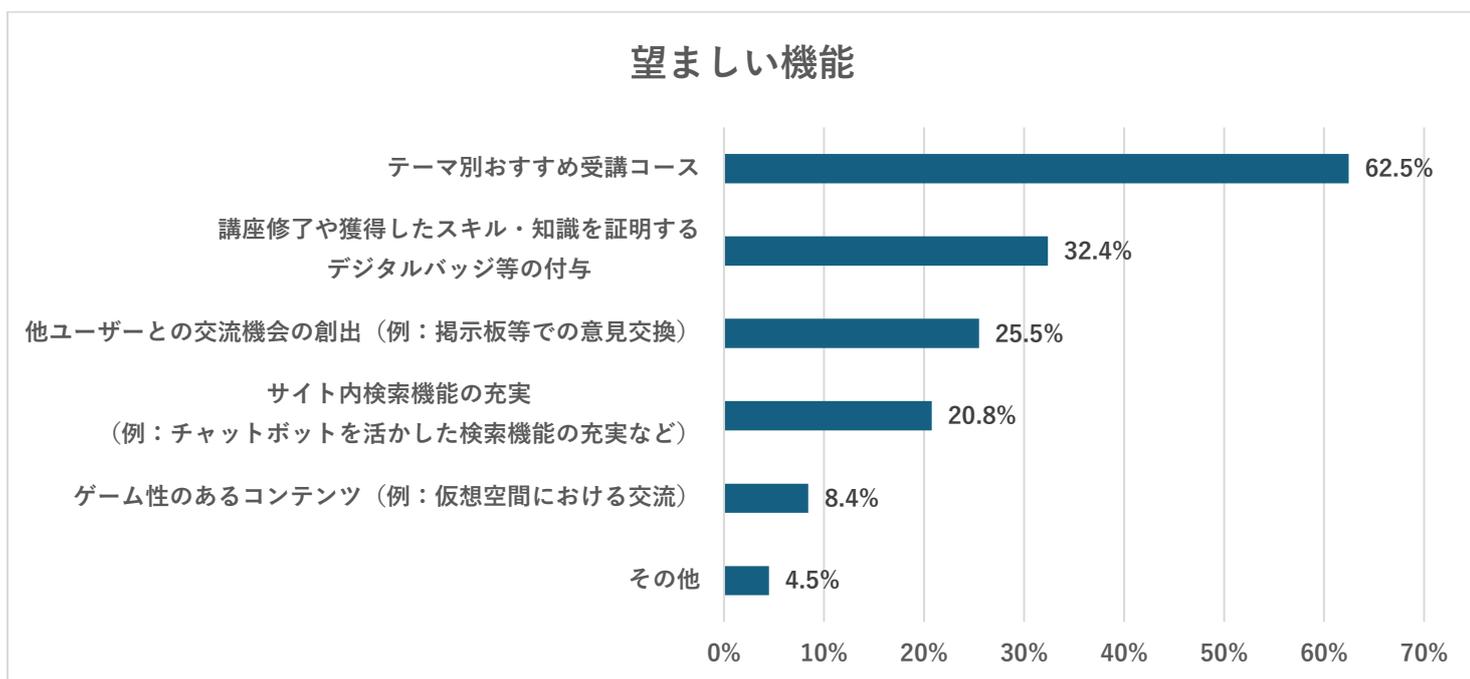
(9) (7) で「あまり役に立たなかった」とご回答された方にお伺いします。「あまり役に立たなかった」と感じた理由としてあてはまるものを選択してください。(複数回答可)

昨年度から「講座を受講するのに必要な時間が長くて修了まで学習できなかった」と回答した割合が28.0%から40.2%と増加し、「サイトの利用方法がよくわからなかったと」の回答割合も15.9%から23.9%と像がしている。一方で「必要な専門知識・スキルを取り上げた講座がなかった」の回答が26.2%から20.7%に減少している。「その他」の回答の具体的な内容としては、「現在の実務で役立つ機会がなかった」「内容に興味はあるが受講する時間を確保できなかった」「自分自身とeラーニングとの相性が良くなかった」などの回答があった。



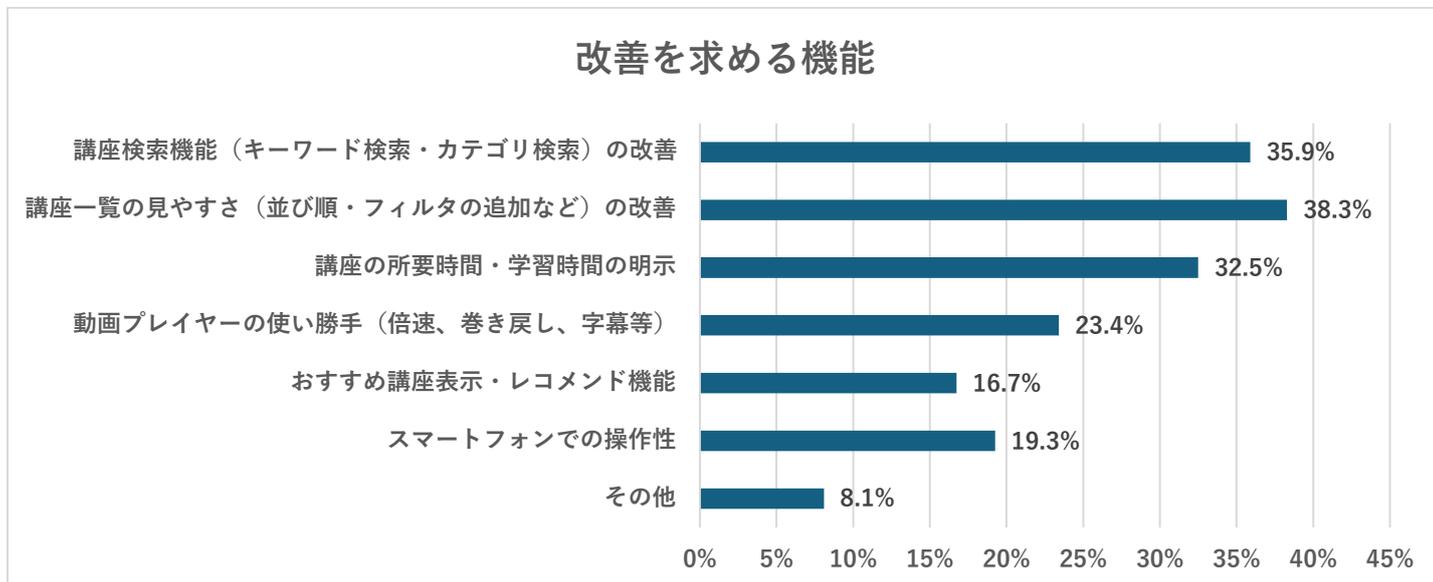
(10) 地方創生カレッジに実装されると望ましい機能がございましたら、お聞かせください。[複数回答可]

望ましい機能について最も多かった回答は「テーマ別おすすめ受講コース」で62.5%が回答した。続いて、「講座修了や獲得したスキル・知識を証明するデジタルバッジ等の付与」の回答が多く、他ユーザとの交流機会の創出やサイト内検索機能の充実も同程度の回答が見られた。その他の回答として、「実際に受講登録する手順がわかりにくいので、手順案内があればありがたいです」「知識やスキルを習得後、新たな仕事に就ける人と人材が欲しい企業とのマッチング」「あらゆる地域で実践している現場の人を講師にすべき」「受講による資格付与」などがあつた。



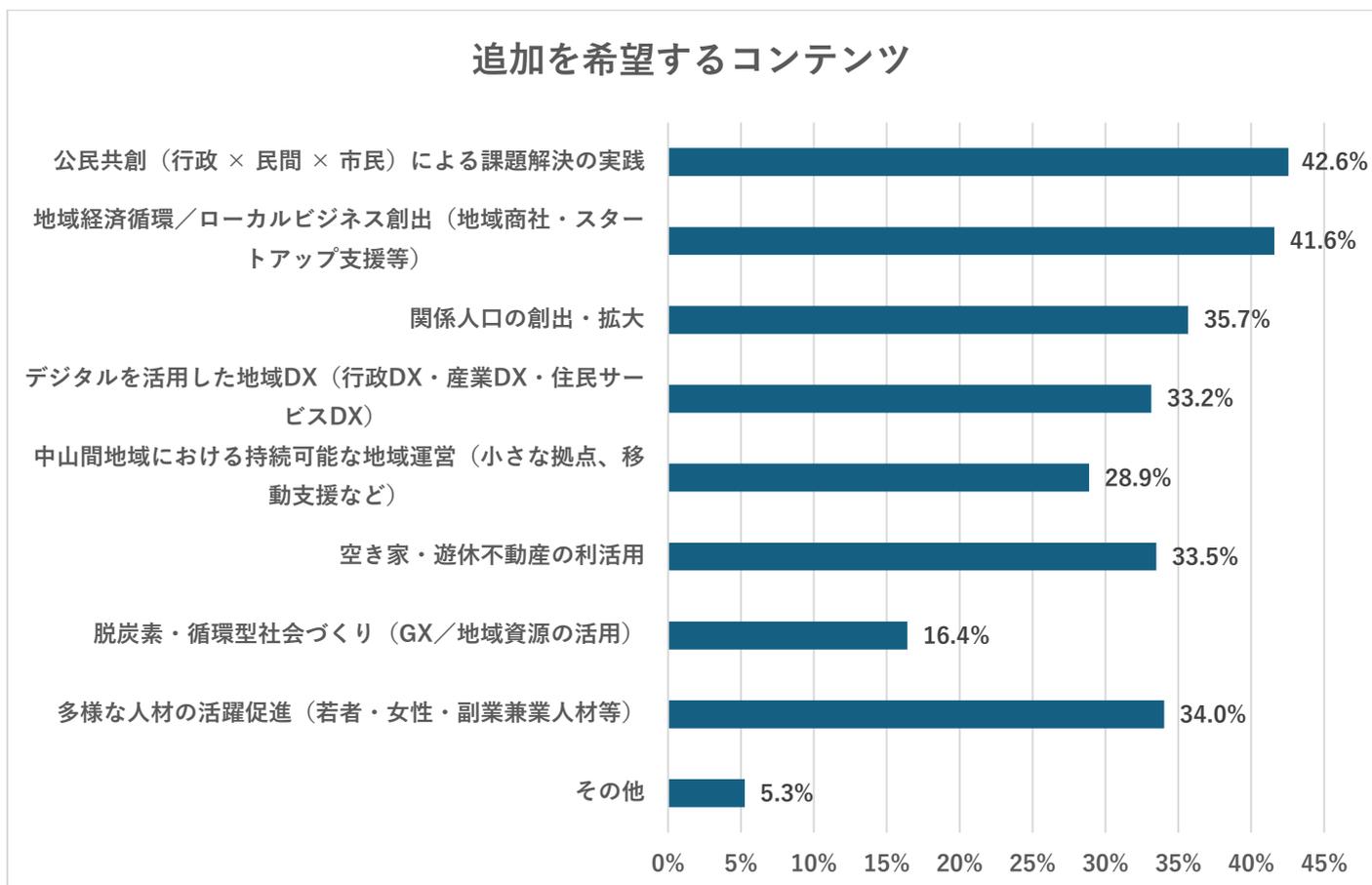
(11) 地方創生カレッジで改善を求める機能がございましたら、お聞かせください。(複数回答可)

改善を求める機能として最も多かった回答は「講座一覧の見やすさ（並び順・フィルタの追加など）の改善」で38.3%が回答した。続いて、「講座検索機能（キーワード検索・カテゴリ検索）の改善」、「講座の所要時間・学習時間の明示」が3割を超える回答となっている。その他の意見として、「講座の更新日時の分かりやすさ」、「最新の動向にたどり着きやすい機能」等があった。



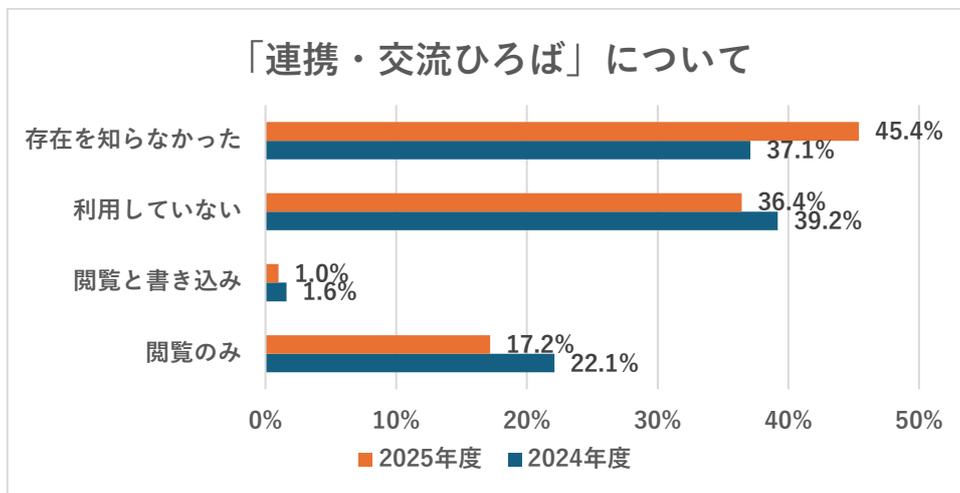
(12) 地方創生カレッジにおいて、追加をご希望されるコンテンツがございましたら、お聞かせください。(複数回答可)

追加を希望するコンテンツとして最も多かった回答は「公民共創（行政 × 民間 × 市民）による課題解決の実践」で42.6%が回答した。続いて、「地域経済循環／ローカルビジネス創出（地域商社・スタートアップ支援等）」が4割を超える回答となっている。その他の意見として、「社会教育による地域づくり」、「子育て世代への支援策」等があった。



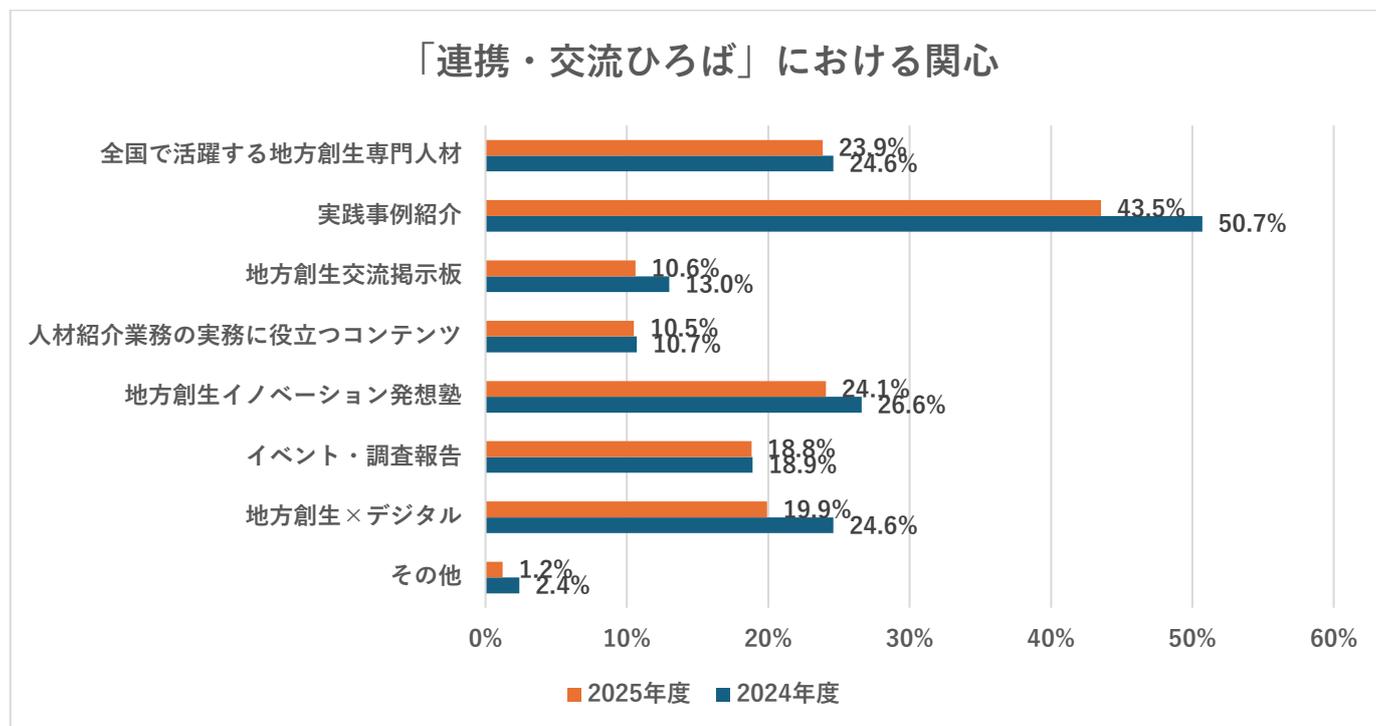
(13) 地方創生カレッジの関連サイトの「連携・交流ひろば」の利用状況についてお聞かせください。【1つに回答】

「連携・交流ひろば」については、「存在を知らなかった」「利用していない」の回答者は合計81.8%となり、昨年度と比較すると「存在を知らなかった」は8%増加し、「利用していない」と回答した割合が微減している。「閲覧と書き込み」「閲覧のみ」と回答した割合も減少している。



(14) 「連携・交流ひろば」における以下のコンテンツのうち、特に関心のあるものをお聞かせください。【複数回答可】

「連携・交流ひろば」のコンテンツへの関心度では、「実践事例紹介」と回答した割合が43.5%と最も多く、次いで「地方創生イノベーション発想塾」「全国で活躍する地方創生専門人材」と続く。「その他」の回答としては「人材交流としての広場の賑わい」「活動の実施レベルに合わせたジャンル分け」との声があった。



3. まとめ

地方創生カレッジは、居住地・年齢・職業・役職でみても幅広い層に利用されている。今回のアンケートは、受講登録者 44,442 人の中から 914 人（2.0%）から回答を得たものをまとめたものであるが、回答者の属性は地方創生カレッジの受講登録者全体の分布と概ね同様となっている。また、回答者の地方創生への関与度合についても、地方創生関連業務の経験者が半数以上を占めているが、地方創生について具体的に知らない者も含まれており、幅広い層から回答を得ている。

地方創生カレッジの良かった点として、関心のある講座が提供されていることを無料で提供されていることが評価されているほか、専門性の高い内容が提供されていることや e ラーニング形式で場所や時間の制約がなく学べることも評価されていることがアンケート結果を通じて確認できた。一方で、受講の所要時間について評価する回答割合が増加していることから、近年の学習におけるタイムパフォーマンスを重視する傾向を踏まえた対応が効果的だったと考えられる。

地方創生カレッジの機能については、テーマ別おすすめ受講コースの表示機能を希望する回答者の声が多いこと、改善する機能として講座の一覧表示、検索機能などが要望としてあることから、受講生が希望する内容の講座にたどり着きやすい改善が求められる。追加を希望する講座として、課題解決の実践事例や地域経済の循環など、受講生が幅広いことを踏まえた講座制作、企画・運営に取り組んでいく必要がある。

「連携・交流ひろば」の利用状況については、「存在を知らなかった」を含めた未利用者の割合が 81.8%と高くなっていることから、アンケート結果を踏まえ、利用者のニーズに応えるコンテンツの制作や発信を通じて利用を促していく必要があるものと考えられる。

以上

地方創生カレッジアンケート調査

本アンケートは、地方創生カレッジ受講者の皆様から生の声を伺い、本カレッジをより良いものにするを目的にしております。2～3分程度で回答可能ですので、何卒ご協力をお願いします。

◎ 送信ボタンを押す前に、途中でブラウザを終了いたしますと回答内容がすべて消えてしまいますのでご注意ください。

◎ 文字を入力する質問では、半角カナは使用しないでください。

ご回答者様の情報をお教えください。

※記入いただいた個人情報は、調査結果の内容照会やお問い合わせ等にものみ利用され、目的外の利用は致しません。

* 1. 都道府県

※都道府県一覧より選択

* 2. 市区町村（自由記述）

* 3. お住まいの市区町村区分は以下のうちどれですか？（1つに回答）

1. 政令市・中核市・施行時特例市・東京23区
2. 市（政令市等以外）
3. 町・村

* 4. 職業

※職業一覧より選択

* 5. 役職（1つに回答）

1. 経営層
2. 管理職（部長、課長等）
3. 非管理職（一般従業員等）
4. 個人事業主
5. 学生
6. その他

* 6. 年齢層

※年齢層より選択

地方創生カレッジ事業について

* 7. 地方創生業務への関与度合い（程度）についてお聞きします。（1つに回答）

1. 現在、地方創生に関連した活動・業務に従事している
2. 以前、地方創生に関連した活動・業務に従事したことがある
3. 地方創生については知っているが、活動・業務に従事したことはない
4. 地方創生について具体的な内容は知らない

* 8. 地方創生に関する業務経験についてお聞きします。（1つに回答）

1. 1年
2. 2年
3. 3年
4. 4年
5. 5年以上
6. 未経験

9. Q8.で「1.～5.」の選択肢にご回答された方は、差し支えない範囲で具体的にどのような地域活動かお聞かせください（任意）

10. 地方創生カレッジのeラーニング講座の受講状況をお聞かせください。（1つに回答）

1. 受講したことはない
2. 受講したことはあるが修了した講座はない
3. 受講修了した講座が1つある
4. 受講修了した講座が2つ以上ある
5. その他（具体的に） _____

11. Q10.で「2.～5.」の選択肢にご回答された方にお伺いします。地方創生カレッジでの受講がご自身の業務にどの程度役に立ったかお聞かせください。（1つに回答）。

1. 大いに役に立った
2. 役に立った
3. 変わらない
4. 役に立たなかった
5. 全く役に立たなかった

12. Q11で「1. 大いに役に立った」もしくは「2.役に立った」とご回答された方にお伺いします。地方創生カレッジの良かった点をお聞かせください。（複数回答可）

1. 関心のある講座テーマがあった

2. 講座の内容が専門的で知識向上に役立った
3. 講座の受講時間がちょうどよかった
4. 受講料が無料だった
5. 場所や時間の制約のないeラーニング形式がよかった
6. その他（具体的に）

*13. 地方創生カレッジで学習された知識等は、どのような実務や地域活動に活かされましたか。（複数回答可）

1. 地方創生に関する専門的知識・スキルの習得
2. 地方創生に関する企画や地域活動の具体化・内容の充実
3. 地方創生に関する事業の創出・新規起業
4. 地域経済に関する分析や実態把握・課題研究
5. 地方創生関連主体や関係者への助言・アドバイス・コンサルティング
6. 地方創生に関するビジネスパートナーや取引先の開拓、人脈形成
7. 所属組織内の研修への展開・活用
8. あまり役に立たなかった
9. その他（具体的に）

14. Q.13で「1.～7.」の選択肢にご回答された方は、差し支えない範囲で具体的な活用事例をお聞かせください。（任意）

15. Q.13で「8. あまり役に立たなかった」とご回答された方にお伺いします。「あまり役に立たなかった」と感じた理由としてあてはまるものを選択してください。（複数回答可）

1. 必要な専門的知識・スキルを取り上げた講座がなかった
2. 必要な専門的知識・スキルを取り上げた講座はあったが、内容が古くなっていた
3. 必要な専門的知識・スキルを取り上げた講座はあったが、内容が難解で理解できなかった
4. 講座を受講するのに必要な時間が長くて修了まで学習できなかった
5. 登録しただけで講座を受講するつもりがなかった
6. サイトの利用方法がよくわからなかった
7. その他（具体的に） _____

*16. 地方創生カレッジに実装されると望ましい機能がございましたら、お聞かせください。（複数回答可）

1. テーマ別おすすめ受講コース（https://chihousei-college.jp/course_recommendation.html）の拡充
2. 講座修了や獲得したスキル・知識を証明するデジタルバッジ等の付与
3. 他ユーザーとの交流機会の創出（例：掲示板等での意見交換）
4. サイト内検索機能の充実（例：チャットボットを活かした検索機能の充実など）
5. ゲーム性のあるコンテンツ（例：仮想空間における交流）
6. その他（具体的に） _____

*17. 地方創生カレッジで改善を求める機能がございましたら、お聞かせください。（複数回答可）

1. 講座検索機能（キーワード検索・カテゴリ検索）の改善
2. 講座一覧の見やすさ（並び順・フィルタの追加など）の改善
3. 講座の所要時間・学習時間の明示
4. 動画プレイヤーの使い勝手（倍速、巻き戻し、字幕等）
5. おすすめ講座表示・レコメンド機能
6. スマートフォンでの操作性
7. その他（具体的に） _____

*18. 地方創生カレッジにおいて、追加をご希望されるコンテンツがございましたら、お聞かせください。（複数回答可）

1. 公民共創（行政 × 民間 × 市民）による課題解決の実践
2. 地域経済循環／ローカルビジネス創出（地域商社・スタートアップ支援等）
3. 関係人口の創出・拡大
4. デジタルを活用した地域 DX（行政 DX・産業 DX・住民サービス DX）
5. 中山間地域における持続可能な地域運営（小さな拠点、移動支援など）
6. 空き家・遊休不動産の利活用
7. 脱炭素・循環型社会づくり（GX／地域資源の活用）
8. 多様な人材の活躍促進（若者・女性・副業兼業人材等）
9. その他（具体的に） _____

*19. 地方創生カレッジの関連サイトの「連携・交流ひろば」の利用状況についてお聞かせください。（1つに回答）

地方創生「連携・交流ひろば」は、地方創生に携わる関係者が知見を共有し、相互にアイデアを提案するためのプラットフォームで、交流や質問のできる掲示板や地方創生の取組に参考となる事例などを豊富に掲載しています。URL：<https://www.chihouseisei-hiroba.jp/>

1. 閲覧のみ
2. 閲覧と書き込み
3. 利用していない
4. 存在を知らなかった

20. 「連携・交流ひろば」における以下のコンテンツのうち、特に興味のあるものをお聞かせください。（複数回答可）

1. 全国で活躍する地方創生専門人材 (<https://www.chihouseisei-hiroba.jp/experts/index.html>)
2. 実践事例紹介 (<https://www.chihouseisei-hiroba.jp/examples.html>)
3. 地方創生交流掲示板 (<https://www.chihouseisei-hiroba.jp/bbs/>)
4. 人材紹介業務の実務に役立つコンテンツ (<https://www.chihouseisei-hiroba.jp/recruitment.html>)
5. 地方創生イノベーション発想塾 (https://www.chihouseisei-hiroba.jp/hassojuku_top.html)
6. イベント・調査報告 (<https://www.chihouseisei-hiroba.jp/event.html>)
7. 地方創生×デジタル (https://www.chihouseisei-hiroba.jp/regional-revitalization_digital/)
8. その他（具体的に） _____

*21. 本アンケートにご回答いただいた方の中から個別に地方創生の取組に関するヒアリングや取材等をお願いする場合がございます。ヒアリングや取材のお願いに関する連絡をしても差し支えない場合は、その旨お知らせください。ご協力は任意です。(一つに回答)

1. 連絡してもよい
2. 連絡を希望しない

22. Q21 で「1. 連絡してもよい」と回答された方は、以下に氏名およびメールアドレスをご記入ください。

氏名 _____

メールアドレス _____

アンケートは以上で終了です。ご協力いただきありがとうございました。